

道徳科学習指導案

指導者 T1 福川 章弘
T2 毛利 佐由理

- 1 日時 平成30年6月20日(水) 5校時
- 2 学年 第5学年(18名)
- 3 主題名 「正義の実現」 [C公正, 公平, 社会正義]
- 4 ねらい

吉野さんの行動や、周りの子どもたちの思いや悩みを通して、いじめがあることを心から望んでいる者など誰もいないのだということを理解し、公正・公平な態度を大切にしようとする心情を育てる。

- 5 教材名 「名前のない手紙」
(出典:「小学道徳 生きる力」日本文教出版)

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目[C公正, 公平, 社会正義]「誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正, 公平な態度で接し、正義の実現に努めること。」に基づくものである。これは、第3学年及び第4学年の「誰に対しても分け隔てをせず、公正, 公平な態度で接すること。」を受け、中学校の「正義と公平さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。」に繋がっていく。

人は自分と異なる他者と関わりあって生きているが、本来、自分と他者は同じ人間として五分五分でなければならないはずだが、その力関係が崩れた時、人間関係や集団社会をゆがめる傾向がある。それらは正義が実現されている状態ではない。正義が実現されている社会は公正・公平でなければならない。公正は、誰に対してもいつでもどこでも、正しいとして通用することであり、公平は、誰に対してもいつでもどこでも、与えるべきは与え、受けるべきは受けることを実現することであると言える。これらの公正・公平が実現された社会であることを理解し、公正・公平に接しようとする心情を育てることは大切である。児童は一人ひとりが、自分の考えや思いを持っていても、つい周りの行動や言動に流され、公正・公平でない集団意識に進んでいくことがある。そんな時一人でも公正・公平な態度で行動することにより、周りが公正・公平な態度を取り戻していくこともある。そこで公正・公平な態度を大切にし、自分の正しいと思うことを積極的にすすめ正義を実現しようとする心情を育てたいと考え本主題を設定した。

○児童観

本学級の児童は、内容項目[C公正, 公平, 社会正義]を中心に、関連項目[A個性の伸長][B友情, 信頼], [Dよりよく生きる喜び]を関連させた総合単元的道徳学習プログラムを通して、誰に対しても公平・公正な態度で接することができる子を目指して取り組んでいる。本学級の児童は集団で仲良く交流し活発に活動することができている。本学級の児童を対象に、「正義の実現」についてアンケート調査を行ったところ、次のような結果になった。

質問①「友達が冷やかされたり、からかわれたりしていたらあなたはどうしますか。」

- ・注意し、冷やかしにあってる子を守ってあげる。 10人
- ・先生に言う。 3人
- ・守ってあげる。 2人
- ・助けに行く。 3人

質問②「友達が無視されたり、仲間はずれにされたりしたらどうしますか。」

- ・先生や家族に相談する。 2人
- ・声をかけてあげる。 7人
- ・一緒に仲良くする。 9人

質問③「正義の実現」とは

- ・正しいことをする。 6人
- ・自分が正しいと思っていることを行動で表すこと。(以下各1人)
- ・悪いことがないようにする。 ・人としてやらないといけないことを本当にやること。
- ・しなければならない正しい行い。 ・どんな友達にも態度を変えないこと。
- ・いじめのない世界のこと。 ・正しいことをして人と助け合い協力すること。
- ・人の為に動くということ。 ・いけないことをさせない。
- ・自分の小さいころの夢を叶える。 ・やさしくかっこいいこと。
- ・無回答

道徳意識調査 いじめを見たり聞いたりしたとき、いじめをやめさせようとする事ができる。

- ・そう思う 7人
- ・すこしそう思う 8人
- ・あまり思わない 1人
- ・そう思わない 2人

上記のアンケートの質問①②からいじめはいけないことでありやめさせたいという意識は高かった。友達が無視されていたりからかわれていたりする場面では自分から動き助けるという児童が多いことがわかった。質問③の「正義の実現」については、正しいことを行動で表すことの必要性を考えるなど、自分なりのとらえができていた児童が多かったが、数名よくわかっていない児童がいることもわかった。

道徳意識調査では、「いじめをやめさせようとする事ができない」と答えていた児童が3人いた。アンケートにあったようにいじめを見たら助けてあげたい気持ちがあっても、実際にやめさせることに難しさを感じていると思われる。自分の言いたいことや嫌なことが素直に言えず、自分で悩みを抱え込んでしまう児童がいる。思いやりのない言動で友達を傷つけてしまうことや自分の考えを言えず友達との力関係で強い者の見方をしてしまうことがある。自分の仲間を優先し、自分の好みで相手に対して不公平な態度をとってしまうこともあり、自分と異なる考え方や感じ方を理解し、集団の中で公正、公平な態度をとれるまでには至っていない。

○指導観

本教材は、クラスのリーダー的存在であるミッコが、「わたし」を仲間外れにしようと指令を出したことから始まる。仲間外れになった「わたし」は、抗議もできず疎外感にかられる日々が続く。あるとき、「わたし」の筆箱に名前のない励ましの手紙が入るようになり、「わたし」の心の支えとなる。そして、転校する吉野さんの告白をきっかけに、仲間外れをしていたクラスの悪い状況を打ち破る勇気の声が次々と上がるという内容である。

指導に当たっては、吉野さんの行動がクラスを動かす場面と、そこに至るまでクラスメイトが「わたし」を無視し続けていることに着目させ、クラスの弱さや本心に迫るようにするとともに、それぞれが勇気をもって社会正義を実現しようとする心情を育てるため、次の5点に留意する。

- ① 導入では、「正義の味方とは」という問いから「正義」のイメージを持たせる。ねらいとする価値への方向付けを行うとともに、「正義の実現のために大切なことは何だろう」という課題意識を持たせる。
- ② 展開前段では、手紙を書いた子はクラスの他の子と同じようにいじめをしているのだが「わたし」のことをなんとかしたいという気持ちと、自分自身の身も守らなければいけないという葛藤から、やむなく手紙に名前を書けなかったことに気づかせる。
- ③ 中心発問では、吉野さんがみんなの前で発言した意図や思いをしっかり考えさせる。また、クラスの他の子の思いについても問いかけ、様々な立場に立ち、それぞれの思いを考えさせる。さらに自分は吉野さんかクラスの他の子のどちらの立場に共感できるかを問う。このとき心情メーターを活用し、自分はどの位置か記入させ、どうしてそう思うか理由をペアで話し合わせ、お互いの考えに対し、質問したり意見を言ったりさせることで考えを深められるようにする。(研究主題とのかかわり“人とのかかわり”)
- ④ 展開後段では、吉野さんの行動から正義の実現について、どんなことが大切だと思ったかをグループで話し合わせることで友達のいろいろな考え方に触れ、正義の実現の為には周囲の雰囲気や人間関係に流されない態度が大切なことに気付かせる。(研究主題とのかかわり“自分、人とのかかわり”)
- ⑤ 終末には、振り返りの視点を示すことで、新しい考えや課題を見つけよりよい生き方について考えられるようにする。

7 準備物

場面絵、道徳ノート、ワークシート

8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	指導形態		○留意点●評価 ★資質・能力評価
			T 1	T 2	
導入 (5分)	1 課題意識を持つ。	○正義の味方とはどんな人でしょう。 ・人を守る。 ・正しいことをする。 ・優しい人。 ・相手のことを考えて行動する人。 正義を実現するために大切なことは何だろう。	発問	板書	○正義の味方について、各自考えさせ、ねらいとする価値への方向づけを図る。 ○正義の味方になれるかどうかを問い、課題につなげる。
展開 (33分)	2 教材「名前のない手紙」の範読を聞き、考え、話し合う。	○仲間外れにされた「わたし」はどんな気持ちになったのでしょうか。 ・つらい。 ・一番の仲良しだったのに。 ・ミッコに抗議することはできない。 ・みんなミッコのいいなりでひどい。	範読 発問	机間指導 板書	○全文を範読後、概要を押さえる。 ○仲間外れにされた「わたし」の寂しくもやるせない気持ちに共感できるようにする。

- 手紙を書いた子はどんな思いを持っていたのでしょうか。
- ・仲間外れをしているけど、本当はしたくない。
 - ・元気づけたい。
 - ・自分が仲間外れになるのは怖い。

【中心発問】

○吉野さんはどんなことを考えて、みんなの前ではっきり発言したのでしょうか。

- ・このままではいけない。
- ・今日を逃したら、もう言えない。
- ・自分が仲間外れになるかもしれないのがこわくて、みんなと一緒にひどいことをしていたことを謝りたい。
- ・仲間外れをなくしたい。
- ・間違っていることをきちんと正したい。
- ・みんなも仲間外れなんてしたくないはずだ。

【解きほぐしの発問】

○自分がこのクラスにいたらどうしますか。

吉野さん ←————→ クラスの他の子

- ・仲間外れはいけないと言う。
- ・一人でも行動する。
- ・勇気を出してする。
- ・吉野さんのように行動したい気持ち強いけど、不安。
- ・一人ではできそうもない。
- ・周りに合わせてしまいそう。
- ・吉野さんみたいな子がいてくれたら、一緒にできるかもしれない。

発問

板書

○「わたし」のことをなんとかしてあげたいという気持ちと、自分自身を守らなければいけないという葛藤から、名前を書けなかったことに気づかせる。

発問

机間指導

○吉野さんがみんなの前で発言した意図や思いをしっかりと考えさせる。

机間指導

板書

○最初はしかたなくやっていたかもしれないが、途中からもやもやした気持ちが生まれ、行動に移すことができた吉野さんの心の変化を捉えさせる。

○吉野さんの話を聞いて「わたしも」と言った子や何も言わない子の思いについても問い掛け、いろいろな立場の思いを考えさせる。

発問

板書

○心情メーターを活用し、自分はどの位置か記入させる。その理由をペアで話し合わせる。
(人とのかかわり)

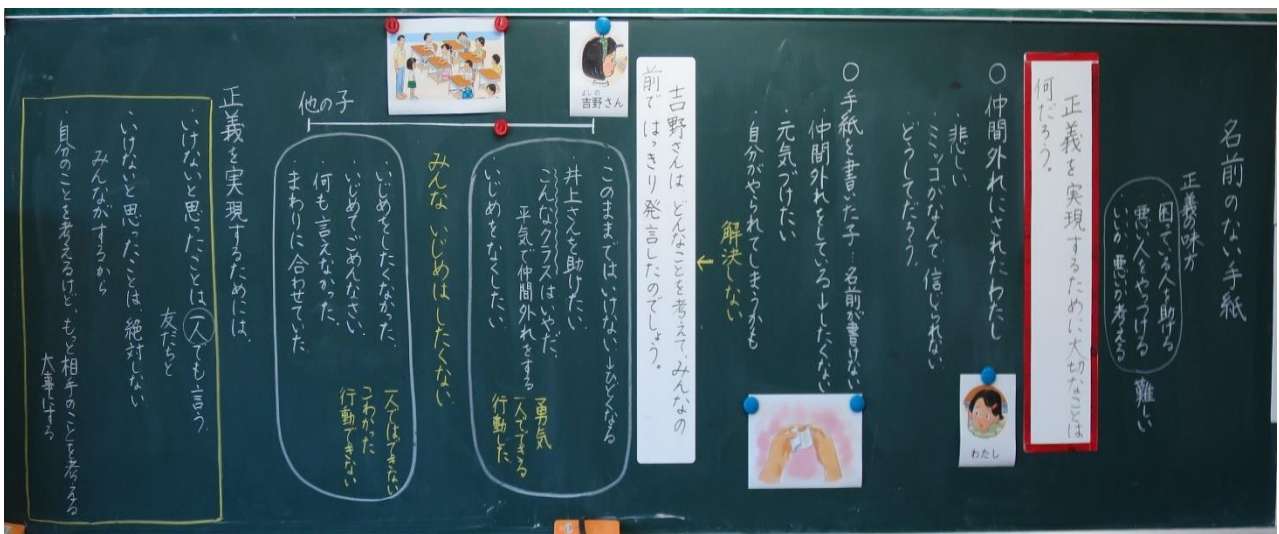
○吉野さんとクラスの他の人との違いに気づかせ、傍観者から仲裁者になることがいじめをなくすカギであることに気づかせる。

【キーワード】

- ・人の考えに流されずいけないことはいけないと言う。
- ・いじめを絶対なくすという気持ちを持つ。

	<p>3 自分の生活を振り返り、まとめる。</p>	<p>○吉野さんの行動から正義の実現のために、どんなことが大切だと思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間外れは絶対しない、許さない。 ・周りの人の考えに流されず、いけないことはいけないと言う。 ・勇気を持って動く。 	<p>机間指導 板書</p>	<p>発問 机間指導</p>	<p>○グループで話し合わせ、正義の実現のためには周囲の雰囲気や人間関係に流されない態度が大切なことに気付かせる。 (自分とのかかわり) (人とのかかわり)</p>
<p>終末 (7分)</p>	<p>4 振り返りをする。</p>	<p>○「正義の実現のために大切なこと」について今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日新たにわかったことは、正義の実現のためには日ごろから自分の考えを持ち、友達の意見に流されることなくいけないことはいけないと正しく言うということです。 ・今はみんなの前で正しいと思ったことを話すのは難しいけどいじめをなくすために自分も正しいと思ったことを言えるようになっていきたいと思いました。 	<p>発問 机間指導</p>	<p>机間指導</p>	<p>○ワークシートに「① 今日新たに分かったこと、考えたこと ②今の自分について振り返り、これから生かしたいこと」という視点で振り返らせる。</p> <p>●いじめがあることを心から望んでいる者など誰もいないのだということを理解し、公正公平な態度を大切にしようとしているか。</p> <p>自己理解 ★正義の実現に対して自分の生活を振り返り自分のよさや課題を見つけ、よりよい生き方について考えている。</p>

9 板書計画



10 教材分析図

【主人公】 吉野さん

【変容】 最初はまわりに流され、わたし（井上さん）と口を聞かなかった。これではいじめはなくならないと考え、学級のみんなの前で話した。

【きっかけ】 転校、このままではいけないという想い

【助言者】 吉野さん

【道徳的論点】 C 公正，公平，社会正義

吉野さん

- ① クラスのリーダー的存在の光子が、「井上さん」と仲よくしてはいけないと指令を出し、「わたし」をのけ者にする。
- ② 楽しそうに遊ぶ友達の姿を、一人ぼっちで見るつらそうな「わたし」を見る。
- ③ このままではいけないと考え、差出人の名前のない手紙を机の中に入れ「わたし」を励ます。
- ④ 転校する前に自分の間違いをみんなの前で井上さんに謝罪した。
- ⑤ 仲間外れをしていたクラスの悪い状況を打ち破る勇気の声が次々とあがる。

吉野さん

【中心発問】

吉野さんはどんなことを考えて、みんなの前ではっきり発言したのでしょうか。

【解きほぐしの発問】

自分がこのクラスにいたらどうしますか。